

8 横浜市総合リハビリテーションセンター診療所

診療所長	平 塚 和 人
定 員	入 院 19 床

外来診療・入院診療・医学検査・薬剤・機能訓練・外来療育等の業務を行うとともに、関係各部課が必要とする医学的リハビリテーション機能を提供しました。

平成 20 年度から、思春期（概ね中学校期以降 18 歳未満）の主に発達障害のある方またはその疑いがある方を対象とする診療及び相談を開始し、学齢障害児に対する支援ニーズに対応する取組を拡充してきました。

主な事業内容は次のとおりです。

(1) 外来診療

医学的判定のほか、医療を必要とする障害児・者に医学的診断や治療を行いました。今年度の診療受診者数は 9,756 人でした。また、整形外科と発達神経内科・発達リハ科が連携し、主に脳性麻痺の尖足変形に対して、BOTOX 治療（15 件）を行いました。診療科別受診者数 (人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	昨年度
リハ科	299	253	301	275	254	320	293	265	249	231	249	281	3,270	3,395
整形外科	77	56	73	76	85	72	70	78	67	68	64	51	837	810
小児リハ科	72	44	42	27	44	54	27	31	32	27	57	48	505	581
神経小児科	43	46	60	52	53	39	47	51	47	33	69	70	610	673
発達精神科	156	149	226	191	166	136	162	186	157	163	201	205	2,098	1,902
内科	1	0	2	3	0	4	0	0	0	2	1	0	13	31
泌尿器科	6	7	5	7	6	4	6	10	8	7	5	4	75	73
眼科	0	0	1	1	1	1	1	0	0	1	0	3	9	11
耳鼻咽喉科	77	99	87	78	92	101	102	85	103	102	97	78	1,101	1,058
精神科	6	7	2	5	2	2	8	4	4	8	7	10	65	36
歯科	96	100	121	108	84	81	95	95	105	96	96	96	1,173	1,339
合 計	833	761	920	823	787	814	811	805	772	738	846	846	9,756	9,909

※PT・OTの再診は含まれていません。

(2) 入院・手術

多様化している利用者のニーズに対応するため入院ベッドを活用し、集中的な機能訓練や評価、手術や術後リハビリテーションを実施しました。さらに、整形外科と発達リハ科や発達神経内科が連携し、体幹の高緊張に対する BOTOX 治療を 21 件行いました。親子入院については、各専門スタッフによるプログラムの充実を図り、12 組の利用がありました。また、学齢支援として 2 人の単独入院を実施しました。

さらに、集中訓練及び生活環境等の見直しを目的に定期的にメンテナンス入院を受け入れました。14人（脊髄損傷9人・脳血管障害5人）が利用し、昨年度の8人から増加しました。

ア 入院年間実績 (人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	昨年度
新規入院者数	9	11	7	4	12	6	8	10	4	12	8	9	100	98
退院者数	11	8	8	8	11	2	14	3	9	8	9	8	99	96
月末在院者数	10	13	12	8	9	13	7	14	9	13	12	13	※11.08	※9.33

※は、月末平均在籍者数

イ 手術年間実績 (件)

内 容	件 数
筋・腱延長移行術	10
大腿骨骨切り術	1
足部矯正骨切り術	1
骨内異物除去術	1
合計	13
昨年度	11

(3) 医学的検査

医師の診断や治療効果の判定に必要な種々の医学的検査を行いました。

ア 放射線検査

各診療科からの処方により、X線撮影を行いました。

放射線検査年間実績 (人：件)

		X線撮影	フィルム複写	合計	昨年度
医 科	人数	1,163	108	1,271	1,376
	件数	1,455	207	1,662	1,902
歯 科	人数	49	0	49	35
	件数	49	0	49	35

イ 臨床検査

各診療科からの処方により、生化学検査や血液検査等を行いました。

臨床検査年間実績 (人：件)

	生化学	血液	一般	血清	細菌	病理	生理	合計	昨年度
人数	339	285	337	152	19	3	277	1,412	1,514
件数	5,531	1,628	3,244	566	57	3	491	11,520	13,431

(4) 薬局

各診療科からの処方により、医薬調剤を行いました。

薬剤年間実績

(枚：件)

種 別			
処 方 箋	枚 数	外 来	2,570
		入 院	780
		合 計	3,350
		昨年度	3,063
	件 数	外 来	4,758
		入 院	1,466
		合 計	6,224
		昨年度	5,762
注 射 箋	枚 数	外 来	74
		入 院	104
		合 計	178
		昨年度	160
	件 数	外 来	104
		入 院	303
		合 計	407
		昨年度	445

(5) 歯科衛生指導

一般歯科治療の他に、通園課の集団検診及びブラッシング指導、施設利用者のう歯や歯周疾患予防を行いました。特に今年度は、ニーズが高い入院・入所利用者の口腔衛生状態について歯科衛生士が健診を行い、必要なケースに適切な治療が行われる新しい仕組みを作りました。

歯科年間実績

(人)

項 目	今年度	昨年度
療育検診	24	40
療育衛生指導	11	31
外来衛生指導	245	149
入院・入所者検診	34	

(6) 臨床心理

障害児者及びその家族を対象に心理検査や心理療法等を行うとともに、障害者更生相談所からの委託を受け、心理判定を行いました。また、平成 18 年度から開発している保護者の集団カウンセリングと個別の心理療法を組み合わせた早期介入プログラム「BEE (Buzz, Education and Exercises)」を引き続き実施しました。

また、今年度に事業化された高次脳機能障害支援センターと連携して、地域機関への講演や技術援助を行いました。

ア 心理指導年間実績 (件)

	心理療法	心理療法の内 心理検査	昨年度
小児	2,889	541	1,001
成人	4,346	606	4,113
合計	7,235	1,147	5,114

イ 心理判定年間実績 (件)

項 目		合 計	昨年度
手 帳 判 定	新 規	101	106
	再交付	448	482
	読 替	201	235
総 合 判 定	身体障害	2	4
	知的障害	143	155
強 度 行 動 障 害 判 定		0	0
合 計		895	982

(7) 外来集団療育

ア 精神発達障害児

初期療育グループ「たまご」・治療開発グループ「TREAT」・学童グループ「COSST」を実施しました。

初期療育グループ「たまご」は、早期発見から療育に導入する際に、必要な評価と保護者への支援を行いました。

治療開発グループ「TREAT」は、初期療育を経た後に、高機能発達障害の児童を対象として、1年間の継続した治療教育と保育所・幼稚園への技術支援を実施しました。

学童グループ「COSST」は、学齢期における障害の評価と学校教育との連携を目的として、早期療育からの継続したフォローアップを行いました。

(7) 年間受け入れ数 (クラス：人)

グループ名	クラス数	実人数	延人数	昨年度
初期療育	15	76	497	481
治 療	1	5	106	114
学 童	23	140	357	280

(イ) 初期療育グループ「たまご」年間実績

a 紹介経路 (人)

区福祉保健センター	50
医療機関	8
保育所・幼稚園	8
直接来所	3
転科	5
その他	2
合計	76

b 年齢別内訳 (人)

2歳児	7
3歳児	38
4歳児	20
5歳児	11
合計	76

c 障害別内訳 (人)

広汎性発達障害	75
精神遅滞	1
合計	76

d グループ終了後の移行先 (人)

心理相談	32
通園施設(知的)	22
通園施設(難言)	1
ぴーす新横浜	16
診察のみ	3
転居・終了	2
合計	76

(ロ) 治療開発グループ「TREAT」年間実績

a 年齢別内訳 (人)

4歳児	3
5歳児	2
合計	5

b 障害別内訳 (人)

広汎性発達障害	5
合計	5

c グループ終了後の移行先 (人)

心理相談	2
ぴーす新横浜	2
医師診察のみ	1
合計	5

(エ) 学童グループ「COSST」年間実績

a 年齢別内訳 (人)

小学校 1 学年	4
小学校 2 学年	9
小学校 3 学年	17
小学校 4 学年	8
小学校 5 学年	5
小学校 6 学年	8
中学校 1 学年	17
中学校 2 学年	13
中学校 3 学年	7
高等学校以上	52
合 計	140

b 障害別内訳 (人)

広汎性発達障害	138
精神遅滞	2

c 現利用教育機関 (人)

小学校 (普通学級)	16
小学校 (個別支援学級)	12
小学校 (通級指導教室を併用)	23
中学校 (普通学級)	19
中学校 (個別支援学級)	13
中学校 (通級指導教室を併用)	5
特別支援学校(小学部)	0
特別支援学校 (中学部)	1
特別支援学校(高等部)	15
高等特別支援学校	0
高等学校	12
大学・専門学校	9
就 労 他	15
合 計	140

d プログラム (回)

集団指導	41
個別面接	31
保護者教室	38
保護者面接	50
余暇活動への支援	12
学校とのカンファレンス	12
合 計	184

イ 肢体不自由児

育児支援グループ・評価グループ・初期療育グループを実施しました。育児支援グループは、運動発達障害及びそのリスクのある児の保護者に対する支援を行いました。

評価グループは、療育に導入するにあたっての評価と保護者への動機づけを行いました。

初期療育グループは、評価グループを経過した児と保護者を対象に、運動発達状態により 2 グループに分けて運営し、次年度以降の療育プランを考えながらの療育と保護者への支援を行いました。

(7) 年間受け入れ数 (クラス：人)

グループ名	クラス数	実人数	延人数	昨年度
育児支援	1	29	125	125
評価	1	4	33	58
初期療育（未歩行群）	2	13	174	69
初期療育（不安定歩行群）	1	6	101	159

(i) 育児支援グループ

a 年齢別内訳 (人)

0 歳 児	9
1 歳 児	9
2 歳 児以上	1
合 計	19

b 障害別内訳 (人)

中枢神経系運動障害	4
精神運動発達遅滞	15
その他	0
合 計	19

c グループ終了後の移行先 (人)

診察及び個別訓練継続	9
発達精神科への転科	0
終了	4
合 計	13

(ii) 評価グループ

a 年齢別内訳 (人)

1 歳 児	4
2 歳 児	0
3 歳 児	0
合 計	4

b 障害別内訳 (人)

中枢神経系運動障害	1
精神運動発達遅滞	2
その他	1
合 計	4

c グループ終了後の移行先 (人)

初期療育（未歩行）	1
初期療育（不安定歩行群）	3
合 計	4

(iii) 初期療育グループ（未歩行群）

a 年齢別内訳 (人)

2 歳 児	10
3 歳 児	1
4 歳 児	2
合 計	13

b 障害別内訳 (人)

中枢神経系運動障害	9
精神運動発達遅滞	4
合 計	13

c グループ終了後の移行先 (人)

通園施設 (肢体)	12
診察及び個別訓練継続	1
合 計	13

(4) 初期療育グループ (不安定歩行群)

a 年齢別内訳 (人)

2 歳 児	6
合 計	6

b 障害別内訳 (人)

精神運動発達遅滞	4
中枢神経系運動障害	2
合 計	6

c グループ終了後の移行先 (人)

診療及び個別訓練継続	1
通園施設 (肢体)	1
発達精神科への転科	1
その他 (転居、終了)	3
合 計	6

(8) 機能訓練

理学療法、作業療法、言語聴覚療法、体育指導の各分野について、他職種と連携を図りながら評価や訓練及び指導を実施しました。

診療所外来・入院、障害者支援施設利用者など、小児から高齢者までの広汎な年齢層と多様な障害を対象に、多岐にわたるニーズに応えました。

ア 理学療法

運動療法・日常生活活動訓練・物理療法・水治療法などのアプローチによって、主として基本的動作能力の回復を図るための訓練を実施しました。

また、医師や工学技師等と協力して、義肢・装具・車いす・歩行補助具等の選定及び適合訓練を行うほか、自立した生活を送ることができるように、住宅改修の助言や福祉用具の選定、家庭での運動及び家族への介助方法の指導を行いました。

イ 作業療法

身体的・精神的機能の回復や維持及び改善を目的に、様々な作業活動を通じた訓練を実施しました。多岐にわたる障害のニーズに合った日常生活活動や、生活関連活動及び職業前評価・訓練を行いました。

ウ 言語聴覚療法

小児の言語発達の遅れ、脳血管障害による失語症・運動性構音障害、聴覚障害等、様々な言語聴覚障害児者に対し、評価・訓練を実施しました。

また、脳性麻痺や進行性神経筋疾患等で発語が困難なケースに対しては、代替コミュニケーション機器の選定とその活用訓練を実施しました。

エ 体育指導

機能訓練の一環として、スポーツを中心とした身体活動をとおして、基礎体力の向

上や機能の維持向上及び日常生活における余暇の充実を図りました。

オ 年間実績

(7) 理学療法年間実績 (件)

月	外 来	入 院	支 機 援 能 施 訓 設 練	小 児 外 来	小 児 入 院	通 園	合 計
4月	195	218	375	269	34	75	1,166
5月	152	150	343	269	34	75	1,023
6月	212	203	409	310	48	99	1,281
7月	188	188	311	305	34	71	1,097
8月	201	163	266	304	49	77	1,060
9月	216	185	246	285	20	84	1,036
10月	188	160	249	289	24	69	979
11月	228	163	278	322	22	89	1,102
12月	200	157	244	287	38	48	974
1月	210	180	208	296	31	95	1,020
2月	185	197	190	303	41	80	996
3月	206	238	298	287	26	65	1,120
合 計	2,381	2,202	3,417	3,526	401	927	12,854

(i) 作業療法年間実績 (件)

月	外 来	入 院	支 機 援 能 施 訓 設 練	小 児 外 来	小 児 入 院	通 園	合 計
4月	177	182	286	60	6	39	750
5月	167	132	284	82	0	54	719
6月	187	162	312	89	8	93	851
7月	183	144	242	82	4	63	718
8月	192	124	224	101	27	36	704
9月	204	152	216	103	0	82	757
10月	183	125	201	93	5	49	656
11月	189	140	217	105	7	63	721
12月	179	126	174	87	5	37	608
1月	181	151	153	111	1	67	664
2月	225	163	153	109	4	60	714
3月	221	175	205	114	9	41	765
合 計	2,288	1,776	2,667	1,136	76	684	8,627

(㉒) 言語聴覚療法年間実績 (件)

月	外 来	入 院	小 児 外 来	小 児 入 院	通 園	合 計
4月	324	41	58	0	13	436
5月	289	34	58	0	33	414
6月	344	37	57	0	37	475
7月	326	39	61	0	35	461
8月	334	30	62	1	7	434
9月	269	26	74	1	35	405
10月	282	33	65	0	23	403
11月	260	31	49	0	43	383
12月	246	23	69	0	16	354
1月	261	26	68	0	23	378
2月	282	46	62	0	16	406
3月	281	55	40	0	20	396
合 計	3,498	421	723	2	301	4,945

(㉓) 体育指導年間実績 (件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
成人	246	207	330	233	154	170	155	221	149	169	172	219	2,425

(9) 発達精神科における学齢後期対応

ア 実施の内容

診療（初診、再診）及び診療に伴う相談等（診療科目：発達精神科）

イ 対象

思春期（概ね中学校期以降）の主に発達障害のある方またはその疑いのある方

ウ 配置スタッフ

医師、看護師、臨床心理士、ソーシャルワーカー

実施件数

(件)

診 察	初 診	96		
	再 診	168		
心理指導	心理療法	249	うち心理検査	34
相談対応	本人への相談対応		75	
	保護者への相談対応		689	
	関係機関への コンサルテーション		139 件	139 人

初診学年齢別内訳

(件)

12歳 (中1)	13歳 (中2)	14歳 (中3)	15歳 (高1)	16歳 (高2)	17歳 (高3)	18歳 ～	合計
54	15	11	6	3	5	2	96

(10) 診療研究会の開催

リハビリテーション診療技術の向上を図るため、次のとおり 11 テーマについて開催しました。参加者は、延べ 548 人でした。

診療研究会開催実績

テ ー マ	講 師
心理教育とは何か — その概念の変遷と実践 —	東京福祉大学大学院教授 平木 典子
中学校期における情緒指導通級教室の現状	市立鴨志田中学校通級主任教諭 近藤 幸男
デジタル補聴器のフィッティングについて	筑波大学教授 佐藤 正幸
小児呼吸理学療法	静岡県立こども病院 稲貝 恵美
乳幼児のコミュニケーション能力の獲得	京都大学霊長類研究所 中村 克樹
組織で考えるリスクマネジメント	クオール日比谷法律事務所 平田 厚
聞こえない声を聞く — 重症心身障害児とのコミュニケーション —	大阪発達総合療育センター 黒澤 淳二
運動学習のメカニズムと臨床応用	神奈川県立保健福祉大学教授 菅原 憲一
整形外科的画像診断	リハセンター診療所長 平塚 和人
高次脳機能障害者の地域生活を支援する — ソーシャルワーカーの立場から —	京都博愛会病院 末吉 明香
思春期の精神医学 — ひきこもりの臨床 —	山梨県立精神保健福祉センター所長 近藤 直司